

血友病患者さんが新型コロナワクチン接種を受ける際の注意点

監修：聖マリアンナ医科大学小児科学 名誉教授・客員教授 瀧 正志 先生



新型コロナワクチンを接種できるかどうかの基準は一般の方と同じです。ただし、インフルエンザワクチンなどの皮下注射と異なり、**新型コロナワクチンは筋肉注射**です。そのため、血友病の患者さんは**注射部位の筋肉内出血への予防対策**をとり、そして万一**血腫***が生じた場合は適切に止血治療を行いましょう。

*内出血によって組織内に血液がたまり、こぶのようになった状態

事前に行うこと

- 1** ワクチンの接種について、わからないことや不安なことがある方は、事前に主治医に相談しましょう。
- 2** ワクチン接種日が決まったら、**主治医に日時を伝えてください。**
接種後に筋肉内の出血などが生じた場合に、迅速な対応がとれるようするためです。
- 3** 一般的にはワクチンの接種前に**凝固因子製剤を補充し**、出血を抑制します。
ただし、軽症の患者さんやヘムライブラ®投与中の患者さんでは不要な場合もありますので、主治医に確認してください。
- 4** 注射部位に筋肉内血腫が生じた際の止血治療に関して、あらかじめ主治医と相談しておきましょう。



接種後に行うこと

- 1** 接種直後は10分ほど注射部位を上から**圧迫止血**しましょう。
- 2** 接種後2日ほどは接種したほうの腕を使うのを控えめにし、注射部位に**血腫が生じていないか**観察してください。
- 3** 血腫が生じた場合は、速やかに**止血治療**を行い、**RICE**(局所の安静、冷却、圧迫、拳上)を行いましょう。
- 4** しひれ、進行性の痛み、強い腫れが生じた場合は、速やかに主治医に連絡してください。



血友病・フォン・ヴィレブランド病を含めた凝固・線溶系、血小板の異常症により出血傾向を有する患者さんが新型コロナワクチン接種を受ける際の注意点(抜粋)

2. 筋肉内出血のリスクについて

筋肉注射には、筋肉内出血のリスクがあります。部分的な出血であれば血腫になります。ワクチン接種直後および接種後2~4時間の時点での注射部位の腫れがないかを確認しましょう。稀ではありますが、広範囲に出血が拡がった場合にはコンパートメント症候群(注2)を発症し、血行障害や神経損傷を引き起こすことがあります。コンパートメント症候群の症状としては、しびれ、進行性の痛み、強い腫れ、などがあります。これらの症状がみられた時には、すぐに主治医と連絡を取ってください。

3. 筋肉内出血を最小限にするための対策

- 1) 細い注射針の使用:可能であれば、細い針(25~27G)で接種をしてもらいましょう。
- 2) 十分な局所圧迫:可能であれば、注射部位に圧迫用の包帯(止血帯)を約10分巻きましょう。その際、強く巻き過ぎて血流障害が生じないように注意しましょう。止血帯がなければ、指先で注射部位を約10分圧迫しましょう。
- 3) 冷却:注射部位周囲の血管収縮を促し、出血量を少なくするために、可能であれば、注射の前、終了後5~10分は、局所圧迫と併せて、アイスパック等で局所冷却しましょう。
- 4) ワクチン接種した腕の安静:接種後2日程度は、接種した腕の使用は控えめにしましょう。
- 5) もしも出血してしまった場合のことを考え、ワクチン接種は利き腕とは反対の腕にしてもらいましょう。利き腕が使えなくなると、自己注射に支障を生じます。
- 6) なお、出血がなくても、ワクチン接種後1~2日は接種した腕の不快感を覚えることがあります。明らかな腫れや痛みがなければ、様子を見て良いでしょう。

4. 接種前に、主治医と連絡を取りましょう。

ワクチン接種の担当医がどなたになるか、自治体によって異なると予想されます。ワクチン接種を受ける前には、主治医と連絡を取って、ワクチン接種前に凝固因子製剤の投与等が必要かを確認しましょう。また、接種後に筋肉内出血等が生じた場合に迅速な対応が取れるよう、接種日も伝えておきましょう。

5. 各疾患による特殊な留意点

【血友病】

海外からは以下のガイダンス(参考文献1, 2, 3)が出ているので参考にしてください。但し、個人差がありますので、実際には主治医と相談をして決めてください。

- ・凝固因子製剤の定期補充療法を継続している方は、定期補充後にワクチン接種をしましょう。
- ・血友病の患者さんで、凝固因子活性のベースライン値が10%以上であれば、ワクチン接種前の凝固因子製剤の補充は必要ないかもしれません。
- ・ヘムライブラ®投与中の患者さんでは、そのままワクチン接種を受けられるかもしれません。

注2) 血腫による局所の内圧の上昇により血管、神経、筋肉が圧迫されて生じる組織障害です。

参考文献

1. COVID-19 vaccination guidance for people with bleeding disorders. Guidance from the WFH, EAHD, EHC and NHF. 2020/12/22.
2. Intramuscular injection in patients with bleeding disorders: Guidance for patients and clinicians. St George's University Hospitals NHS Foundation Trust. 2020/12/9.
3. Hochart A, Falaise C, Huguenin Y, Meunier S. Intramuscular vaccination of haemophiliacs: Is it really a risk for bleeding? Haemophilia 25(5): e322-323, 2019.

「血友病・フォン・ヴィレブランド病を含めた凝固・線溶系、血小板の異常症により出血傾向を有する患者さんが新型コロナワクチン接種を受ける際の注意点」
(一般社団法人 日本血栓止血学会、一般社団法人 日本血液学会、2021年3月)より引用

